

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 5日現在

機関番号：12601
 研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2009～2012
 課題番号：21320099
 研究課題名（和文）ウェブ環境を利用したオープンリソース型スペイン語教育標準の応用
 研究課題名（英文）Application of the standards-based Spanish language education system by using open resources web environment
 研究代表者
 齊藤 文子 (SAITOU AYAKO)
 東京大学・大学院総合文化研究科・教授
 研究者番号：20240731

研究成果の概要(和文):スペイン語教育に資する多様な素材を集めた教材アーカイブを集積し、学習者にも教育者にもモチベーションを与えるサイトを構築した。動画に YouTube を採用し、日本語版だけでなくスペイン語版サイトを用意したことで、海外の視聴者も容易にアクセスできるようになり、国内外のスペイン語教習者、研究者のコミュニティの場が設置された。学習者のアクティビティを学習者同士で共有し、同時に研究データとして活用できる双方向型教材利用システム及び学習者コーパスパターンリストを開発しその運用を始めた。

研究成果の概要(英文): We compiled a digital archive that provides a variety of resources for the learning and teaching Spanish language and culture. To access this archive we constructed a website to serve the needs and interests of both teachers and students. Video materials are uploaded on YouTube and our website is provided both in Japanese and Spanish so that the viewers from abroad can easily access it, and thus we started to establish a Spanish learning and teaching community worldwide. We also developed the programs of Bilateral Teaching Materials Utilization System and Learner Corpus Pattern List, which we began to operate.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2010年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2011年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2012年度	2,300,000	690,000	2,990,000
総計	12,800,000	3,840,000	16,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：外国語教育・スペイン語・マルチメディア・双方向型教材

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究開始当初インターネットを利用し

た外国語教育の方法が国内外で模索されていた。特定のカリキュラムに沿って教材を配

布するオープンコースウェアや、自動的な応答システムを使ったドリル学習的な e-learning がよく見られる方法であるが、どちらも教材作成者からの一方向的な発信が特徴であり、教育者、学習者の自由裁量の幅がともに限られていた。スペイン語教育・学習の環境では、スペインをはじめ海外から多くの研究報告が行われており (Casanova [1998], Fernández Pinto [2000], Fernández Pinto y Lázaro [2000], Enekoitz [2002], Soler [2003, 2004])、国内の大学でも少数ながらウェブを利用したスペイン語教育が試みられていた (東京外国語大学の多言語を横断する「言語モジュール」<http://www.coelang.tufs.ac.jp>。愛知県立大学でのテレビ会議システムを利用したメキシコ及びスペインの大学との遠隔合同授業。慶應義塾大学のウェブ利用の宿題システム <http://estudio.sfc.keio.ac.jp/~tarea/index.php>)。

(2) これらの先行研究や方法を参考にしながら、私たち東京大学教養学部スペイン語部会は平成 16-19 年度にオープンリソース型のスペイン語教育のあり方を研究開発した (研究題目「新しい情報技術を利用したオープンリソース型スペイン語教育標準の構築」研究代表者：齊藤文子、課題番号 16202009)。この研究の特徴の一つは、大学の授業を補完する教材データベースを構築し、学習者と教育者が、インターネットに接続すればいつでも参照できる環境を整えたことである。これは教育者の自由な教材選択と、学習者の積極的な参加を可能にするもので、従来のインターネットを利用した外国語教育のやり方を画期的に変えるものであった。平行して、ウェブ支援を前提としたスペイン語初級レベルの紙の教科書を編集し、出版した (『¡Dímelo!』朝日出版社、2006)。

2. 研究の目的

(1) 前述のプロジェクトで開発した素材提示システム「統合アーカイブ」は、簡単に誰でも画像・映像教材を作れる画期的なプログラムであった。「統合アーカイブ」とは、文法学習に資すると同時にスペイン語圏世界の文化や自然を紹介する視聴覚素材を、一連の静止画像もしくは 60 秒程度の動画にし、これにタイトル、解説やスクリプト、練習問題などを付したものである。文法單元ごとに完結した構造はとらず、テーマ別、地域別、キーワード別の索引によって検索できる柔構造になっており、学習者、教育者はそれぞれの興味関心に沿ってこのアーカイブから教材をストリーミング視聴し、教習に利用することができる。本研究では「統合アーカイブ」を含むネットアーカイブの内容をさらに深化させ充実したものにするために、コンテンツの素材の収集とその編集に取り組む。

(2) コンピュータ支援による協調学習を展開するためのシステムとして、教材アーカイブを使った「双方向型教材利用システム」を新たに開発する。これはアーカイブに蓄積されたコンテンツに対する学習者のスペイン語によるコメントを逐次的に集積するシステムである。このシステムにより、スペイン語使用環境において取材されたさまざまな情報に対する学習者の反応が、ネットコミュニティ内で可視化され、他の学習者と共有することができる。

(3) 本研究の研究連携者や協力者が素材を収集、編集してアーカイブのコンテンツ制作をするだけでなく、授業の一環として学習者によるスペイン語視聴覚コンテンツ制作に取り組む。

(4) 教材アーカイブを利用した授業運営方法を開発する。さらにネットアーカイブ／システムを通じて国内外のスペイン語教習コミュニティの育成を目指す。

3. 研究の方法

(1) 双方向型教材利用システムの開発

ウェブサイトを通して教材が学習者に提供されるという形をとる従来の単方向型ウェブ教材から発展させて、学習者から教材に向けてフィードバックがなされる双方向型教材を開発する。具体的には、学習参加者が教材の静止画像・動画を観察しながらスペイン語で書く感想や意見などを自動的にアップロードできるシステムを構築する。さらにこれを利用した授業運営方法を開発する。

技術的には、大学のウェブサイト、アップロードシステム、自動更新システム、データベース蓄積システム、表示システムが必要である。このシステムの開発、運用にあたっては、日本国内ならびに海外の提携拠点との協力を重視する。

(2) 学習者コーパスパタンリストの開発

上記の「双方向型教材利用システム」において、学習者によって創造的に発信されたスペイン語の書き込みが集積されていくことになる。これを分析し、学生がよく示すパタンを匿名のリストにすることで、研究データとして利用する。

技術的にはウェブプログラミングの手法を用いて KWIC (Key Word In Context)、Indexation, Collocation 分析システムを構築する。

(3) アーカイブに蓄積するための多様な画像・映像教材を収集、編集する。海外の協力大学や研究者との国際的な協力のもとで推進する。

(4) 中級～上級レベルの学生を指導しつつ、学習者による視聴覚コンテンツの制作を促す。その際、日本に関する情報をスペイン語で発信する活動を重視する。

(6) 前プロジェクトで構築した教材アーカイブにアクセスできるホームページは日本語

が主体であったので、日本語以外の言語でのスペイン語教育で使用できるよう、すべての指示をスペイン語に書き換えたスペイン語バージョンを作成する。

4. 研究成果

上記の「研究の方法」に記した双方向型教材利用システムの開発を上田が中心になって行い2年目に完成、ホームページにリンクするサイト「スペイン語フォーラム」(Foro de Español)を立ち上げ、試験期間を経て、スペイン語のいくつかの授業で運用、作文練習の資料を収集した。

これと同時に学習者コーパスパタンリストの作成に着手した。学習者の作文を正規表現を用いた自由な検索法によって各種のパタンを検出し、これを教育・学習に生かす試みである。従来からコーパス言語学で一般に使用されている正規表現は英語・日本語の材料を分析するためのものであるため、スペイン語などの特殊文字を含む言語資料の検索が困難であった。そこで、上田は「拡張正規表現」というシステムを Excel VBA によるマクロプログラム LETRAS.xlsm に導入した。これは、一定のルールをユーザーが自由に設定できるものである。未だ資料が十分ではないので、今期のプロジェクトではプログラム開発とサンプル資料による試行段階を終えるところまでに至った。また文法アノテーションの試行バージョンを2013年の国際学会で発表した。

教材アーカイブ充実に向けてのコンテンツ制作に関しては、上田、グラナドス、木村、網野、石橋がスペイン、メキシコ、ベネズエラ、ペルーで素材収集や編集を行い、10タイトルの動画及び写真集をアップロードし、3タイトルの動画の編集を完成させた。さらに本研究で構築したアーカイブを海外の教育者、学習者と共有できるようにするため、スペイン語バージョンのホームページを網野、上田、

斎藤を中心に構築し、動画の多くを、世界中どこからでも簡単にアクセスできる YouTube を経由して見られるよう再構成した。ホームページ全体の見やすさと使いやすさを増すために、表示と構造を刷新した。またスペイン語中級レベルの授業を使い、学生たちがスペイン語で日本文化を紹介するビデオ作品を制作、YouTube にアップロードして全世界に向けて公開した。これは石橋が担当した。

上田がスペインの共同研究者と作成したビデオ作品の一つは DVD の形でスペインの出版社より刊行された。また本研究の成果を盛りこんだスペイン語文法ハンドブックを上田が、スペイン語初級教科書を竹村が出版した。

本研究では、スペイン語教育に資する多様な素材を集めた教材アーカイブを集積し、学習者にも教育者にもモチベーションを与えうる魅力的で使いやすいサイトを構築した。動画に Youtube を採用、またスペイン語版サイトを用意したことで、海外の視聴者も容易にアクセスできるようになり、国内外のスペイン語学習者、教育者、研究者のコミュニティの場が設置された。さらに学習者個々人のアクティビティを学習者同士で共有し、同時に研究データとして活用できる双方向型教材利用システム及び学習者コーパスパターンリストを開発し、運用を始めた。今後は双方向型教材利用システムなどの本研究が提唱する教育・学習標準を普及させることにより、地域の枠を越えたスペイン語学習・教育コミュニティの相互関係網をさらに発展させていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

① Ueda, Hiroto, Razones de «gelo» medieval y «se lo» moderno. Un estudio

filológico y enseñanza-aprendizaje de ELE, *Actas del VII Congreso Internacional de la Asociación Asiática de Hispanistas*, 査読無, 2011, 60-69.

② Ueda, Hiroto, Maria-Pilar Perea, Applying Quantitative Analysis Techniques to *La flexió verbal en els dialectes catalan*, *Dialectologia et Geolinguistica, Journal of the International Society for Dialectology and Geolinguistics*, 査読有, vol. 18, 2011, 99-114.

③ 上田博人, スペイン語語彙の地域バリエーション: 研究と応用、スペイン語世界のことばと文化、査読無、2010、pp. 97-125.

④ Ueda, Hiroto, Antonio Ruiz Tinoco, Factores determinantes del leísmo de persona en español según los resultados de encuestas diatópicas, *Lingüística Española Actual*, 査読有, 31, 2010, 147-177.

⑤ Ueda, Hiroto, Propuestas para la enseñanza-aprendizaje del español en el ámbito universitario, *Didáctica, Lengua y Literatura (Publicaciones Universidad Complutense de Madrid)*, 査読無, Vol.21, 2009, 373-397.

[学会発表] (計 13 件)

① Ueda, Hiroto, Prioridad valorativa en la enseñanza-aprendizaje de ELE (招待講演), 2013.4.12, セルバンテス文化センター(東京).

② Ueda, Hiroto, Producción y evaluación de materiales didácticos audiovisuales para ELE (招待講演), 2012.3.26, Universidad Europea de Madrid (スペイン).

③ Ueda, Hiroto, La motivación a través del «valor» en la enseñanza-aprendizaje de español como lengua extranjera (招待講演), II Congreso de Español como Lengua

Extr26anjera en Asia-Pacífico, 2011.11.24, Instituto Cervantes, Manila (フィリピン) .

④ Ueda, Hiroto, La enseñanza de la lengua española en la región Asia-Pacífico, Congreso Mundial de Profesores de Español, 2011.11.21, Instituto Cervantes, Madrid (スペイン) .

⑤ Ueda, Hiroto, El porqué de «se lo». La motivación de los alumnos de ELE y las explicaciones gramaticales, Primer Foro del Observatorio de Español, 2011年6月24日, 京都外国語大学 (京都) .

⑥ Ishibashi, Jun, Canto necesario otra vez: movimiento musical para transformación social en la Venezuela bolivariana, XXIX International Congress of Latin American Studies Association, 2010.10.9, University of Toronto (カナダ) .

⑦ Ueda, Hiroto, Razones de «gelo» medieval y «se lo» moderno. Un estudio filológico y enseñanza-aprendizaje de ELE, VII Congreso Internacional de la Asociación Asiática de Hispanistas, 2010.8.26, Universidad de Estudios Extranjeros de Beijing (中国) .

⑧ Ueda, Hiroto, Métodos de tratamiento informatizado de datos lingüísticos hispánicos: Observaciones inmediatas y abstracciones matemáticas (招待講演) , Curso de Formación de profesores de ELE (Instituto Cervantes, Madrid), 2009.7.8, Universidad Europea de Madrid (スペイン)

[図書] (計9件)

① 竹村文彦, 坂田幸子, 放送大学教育振興会, 初歩のスペイン語 ('13), 2013, 286p.

② Ueda, Hiroto, Carlos Rubio, Editorial Edinumen, Por los caminos del español (本とDVD), 2011, 61p.

③ 上田博人, 研究社, スペイン語文法ハンドブック, 2011, 386p.

④ Ueda, Hiroto, Universidade da Coruña, *Visualización del lenguaje a través de corpus*. 2010, pp. 919-932.

⑤ 石橋 純 (編著), 東京堂出版, 中南米の音楽---歌・踊り・祝宴を生きる人々, 2010, pp.12-31, pp.129-148

[その他]
ホームページ等
<http://spanish.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齊藤 文子 (SAITOU AYAKO)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号: 20240731

(2) 連携研究者

木村 秀雄 (KIMURA HIDEO)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号: 10153206
上田 博人 (UEDA HIROTO)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号: 20114796
高橋 均 (TAKAHASHI HITOSHI)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号: 50154844
竹村 文彦 (TAKEMURA FUMIHIKO)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号: 60197332
網野 徹哉 (AMINO TETUYA)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号: 60212578
石橋 純 (ISHIBASHI JUN)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号: 70323318
ウリセス・グラナドス (ULISES GRANADOS)
東京大学・教養学部・教養教育高度開発機構・准教授
研究者番号: 00536873